

蓮と鶏	金子みすゞ
泥のなかから 蓮が咲く。	
それをするのは 蓮じゃない。	
卵の中から、 鶏が出る。	
それをするのは 鶏じゃない。	
それに私は 気が付いた。	
それも私の せいじゃない。	

みすゞさんは、泥の中から 蓮が咲くこと、卵の中から鶏が出ることもみんな当たり前なのではないということを伝えてくれているのではないかと思います。

みすゞさんの詩にはしばしば《仏様》が出てきますので、みすゞさんは仏様の存在を信じていたのでしょうか。

見えない大きい力、存在を信じるということは、創造主なる神さまを信じていることと変わりはないのではないかと思います。

すべてのことは当たり前ではなく、わたしたちは、いつも大きな確かな力、その働きに支えられているということを忘れてはいけないと思います。自分一人の力ではないのです。

すべてが当たり前ではなくて、守られ、支えられているということに気づくということも当たり前ではないのです。

なんでも自分がやったように思ったり、自分中心にならないで、すべてのことには、見えない力が働いてくださっていると気づくことができる人、感謝の気持ちを持つことができる人は、なんと幸いなことでしょうか。



今年の花の日のこと、背の高いガーベラをもって来た年中の男の子が「神様、よく育ててくれたね…」といったのを思い出します。

そう気づいたことは素晴らしいことです。

テレビで、寝ている間に仕事をしている方のドキュメントが放送されることがあります。その番組を見ると、私たちの知らない仕事がたくさんあることを思い知らされ、私たちの生活は、陰でいろいろなことをしている方々によって支えられていることに気づかされます。



そして、何より、見えないところから導き守ってくださる主なる神さまによってわたしたちは生かされています。

日々のお守りに感謝して過ごしたいと思います。